

■いじめ問題への取組についてのチェックポイント（学校用）

学校において、具体的に点検すべき項目を、指導体制、教育相談、教育活動、家庭、地域社会との連携の観点から示します。

指導体制

学校組織においては、学校長のリーダーシップの下に、すべての職員が一致協力して取り組む指導体制を確立する必要があります。

- すべての職員が、いじめは重大な人権侵害で、絶対に許されないという共通の認識に立っているか。
- 学校長を中心に、すべての職員がいじめ問題の解決に向けて一致協力して対応しているか。
- 担任や学年、生徒指導委員会をはじめ、職員全体で情報の共有が図れる体制が整っているか。
- いじめについての研修会を開き、職員間の共通理解を図っているか。
- 教師と児童生徒、児童生徒間の好ましい人間関係の育成に努めているか。
- 児童生徒が出すサインを見逃さず、その一つ一つに的確に対応しているか。
- いじめについての訴えがあった時、問題を軽視することなく的確に対応しているか。特に「日頃から問題行動がない」、「学習成績がよい」等の理由から、対応が不十分になっていないか。

教育相談

- 児童生徒の悩みや要望を受け止めることのできる相談体制が機能しているか。
- 保健室や相談室の機能を十分に生かし、養護教諭や相談員等が得た情報を効果的に活用しているか。（秘密の保持）
- 教育相談体制が保護者にも十分応えられるようになっているか。
- 児童生徒の悩みが解消されるまで、継続的な事後指導を行っているか。
- 必要に応じて、専門機関との連携を図っているか。
- 学校に配置されているスクールカウンセラーや相談員等が十分機能し、活用されているか。

教育活動

- すべての職員がそれぞれの指導場面において、いじめの問題に関する指導の機会を設けているか。
- 道徳や学活、ホームルームの時間帯等にいじめに関わる問題を取り上げ、指導を行っているか。
- 児童会・生徒会活動等において、いじめ問題との関わりで適切な指導や支援を行っているか。
- 児童生徒に幅広い生活体験を積ませたり、社会性の涵養や豊かな情操を培う活動を積極的に推進したりしているか。

家庭・地域との連携

- P T Aや地域の関係団体とともに、いじめの問題について協議する機会を設けるなど、いじめの根絶に向けた地域ネットワークづくりに努めているか。
- 家庭に対して、いじめの問題についての啓発を行なうとともに、家庭訪問や学校通信等を通じて家庭との緊密な連携を図っているか。
- 家庭に対して、生徒指導の基本方針や問題行動への対処、関係機関との連携等について、伝えているか。

- 必要に応じて、児童相談所、警察等の地域関係機関との連携協力を行っているか。

■いじめ発見のチェックポイント（教師用） No. 1

いじめへの対応で大切なことは、いじめの兆候に早く気づき、早期に対応を図ることです。学校で注意しておきたい「いじめのサイン」としては、次のようなものが挙げられます。

学校

教師は、一人一人の子どもが救いを求めて発する小さなサイン（言葉や表情、しぐさ）を見逃さずに、早期に対応することが大切です。「違和感」を感じ取るアンテナを高くすることが求められます。

朝の会

- 遅刻・欠席が増える。
- 始業時刻ぎりぎりの登校が目立つ。
- 表情がさえず、うつむきがちになる。
- 出席確認の際、声が小さい。ぼんやりしていることが多い。
- 持ち物が紛失したり、落書きされたりする。

授業開始時

- 忘れ物が多くなる。
- 用具・机・椅子等が散乱している。
- 机と机を付けず、わざと間をあけている。
- 周囲が何となくざわついている。
- 一人だけ遅れて教室に入る。
- 席を替えられている。

授業中

- 頭痛・腹痛を頻繁に訴える。
- 保健室によく行くようになる。
- グループ分けで孤立しがちである。
- 正しい答えを冷やかされる。発言すると周囲がざわつく。
- テストの成績が急に下がり始める。テストを白紙で出す。
- 授業中、トイレに行くことが多い。（※休み時間のトイレは、いじめの危険個所）

休み時間

- 教室や図書室に一人である。
- 今まで一緒だったグループからはずれていたり、よそよそしかったりする。
- 訳もなく階段や廊下を歩いていたり、用もないのに保健室や職員室に来たりする。
- 友だちと一緒にいても表情が暗い。オドオドした様子で友だちについていく。
- 理由もなく服を汚していたり、ボタンが取れていたりする。

■いじめ発見のチェックポイント（教師用） No. 2

昼食時

- 机を寄せて席を作ろうとしない。
- その子どもが配膳すると嫌がられる。【小学校の給食を想定】
- 食べ物にいたずらされる。（盛りつけをしなかったり、わざと多く盛りつけたりするなど）
【小学校の給食を想定】
- 一人で、または、友だちから離れて、弁当を食べている。【中学校の昼食を想定】
- 食欲がない。
- 笑顔が無く、黙って食べている。

清掃時

- その子どもの机や椅子だけが運ばれず、放置されている。
- その子どもの机や椅子をふざけながら蹴ったり、掃除用具で叩いたりする。
- 他の子どもと一人離れて清掃している。
- 皆の嫌がる分担をいつもしている。
- 目の前にゴミを捨てられる。

放課後

- 下校が早い。あるいはいつまでも学校に残っている。
- 玄関や校門付近で、不安そうな顔をしてオドオドしている。
- みんなの持ち物を持たされている。
- 通常の通学路を通らずに帰宅する。
- 靴や鞆、傘など、持ち物が紛失する。靴箱にいたずらされる。

その他

- 教科書や机、掲示板にいたずら書きをされる。
- 独り言を言ったり、急に大声を出したりする。
- いつになくはしゃいだり、つくり笑顔やおどける様子が目に付いたりする。（※躁的防御）
- 身なりが突然変化する。（※周りからの強制の可能性）
- 教師と視線を合わさない。話す時に不安そうな表情をする。
- 宿題や集金などの提出が遅れる。
- 刃物など、危険な物を所持する。

■いじめ発見のチェックポイント（学級担任用）

直接いじめの加害者・被害者になっていない子どもたちでも、いじめが起きやすい雰囲気のある学級集団の中にいると心が乱れてくるのが懸念されます。

反対に、学級の環境を整備することで、子どもたちの心が豊かになり、温かい人間関係を築くことが可能になってきます。

ここでは、学級担任として、日々の学級経営を見直す際のチェックポイントを示します。

学級担任

子どもたちは、学校のすべての場で学んでいます。学校全体の方針のもと、学年等で情報交換を密にし、職員同士が互いに高まり合いながら学級経営を見直していく必要があります。

また、学級をチェックする時期やチェックしたことの生かし方を考えるなど、見直しを持つことも大切です。

教師の言動

- 子どもの言い分に耳を傾けている。
- 子どものよさを見つけようとしている。
- 規則（校則）を破ったり、人に迷惑をかけたりする行動には、毅然とした態度で対応している。
- えこひいきや差別をせずに子どもと接している。
- やたらと競争意識をあおったり、個人の責任を集団に押しつけない。
- 個人のプライバシーを守っている。
- 一日に一回は会話をするなど、どの子どもともかかわり合いをもっている。

授業時間・学級活動

- わかりやすい授業や充実感がもてる活動を行えるように、配慮と努力をしている。
- どの子どもの発言にも、全員が耳を傾けるよう努めている。
- 困ったことを話題にし、本音を出して考え合うムードづくりを心がけている。
- 朝の会・帰りの会などが、内容豊かで生き生きと運営されるよう支援している。
- 学級内のリーダーに協力しようとする体制の確立を支援している。
- 係が積極的に活動し、新しい試みを取り入れられるよう、配慮や支援をしている。

日々の生活

- 誤りを認め、許し合えるムードがある。
- 教室に笑い声が響き、明るい雰囲気がある。
- 学級の小集団が閉鎖的でなく、互いに交流がある。

他者との連携

- 学年会や他の会議で、子どもの様子を情報交換できる場が確保されている。
- 日頃から、子どもや学級の様子を気楽に話題にできるムードがある。
- 学年だよりや学級だよりなどで、学年・学級の取組の様子が保護者に理解されている。
- 日頃から、個々の子どもの様子を保護者と連絡し合えるシステムが確立されている。

■いじめ発見のチェックポイント（家庭用）

いじめへの対応で大切なことは、いじめの兆候に早く気づき、早期に対応を図ることです。家庭で注意しておきたい「いじめのサイン」としては、次のようなものが挙げられます。思い当たる点や気になることがあれば、学校（学級担任等）に相談してください。

- 衣服の汚れや破れが見られたり、よくけがをしたりしている。
- 風呂に入りがらなくなる。裸になるのを嫌がる。
（※殴られた傷跡やあざなどを見られるのを避けている可能性があります）
- 買い与えたものが紛失したり、壊されたり、落書きされたりしている。
- 家庭から品物やお金を持ち出したり、余分な金品を要求したりする。
- 食欲が無くなったり、体重が減少したりする。
- 寝付きが悪かったり、夜眠れなかったりする日が続く。
- 激しい口調の寝言や助けを求める寝言を言ったり、うなされたりすることが多くなる。
- 表情が暗くなり、言葉数が減る。
- いらいらして反抗的になったり、急に口数が少なくなって元気がなくなったりする。
- 部屋に閉じこもりがちになり、ため息をついたり、考え事をしたりする。
- 言葉遣いが荒くなったり、親や兄弟に反抗したり、ペットをいじめたり、物に八つ当たりしたりする。
- 親から視線をそらしたり、家族から話しかけられることを嫌がったりする。
- 刃物など、危険な物を隠し持つようになる。
- 登校時刻になると、頭痛・腹痛・吐き気などを身体の不調を訴え、登校を渋る。
- 学校を早退したり、用事もないのに帰宅時間が早くなったり遅くなったりする。
- 転校を口にししたり、学校をやめたいなどと言い出したりする。
- 親しい友人が来なくなり、見かけない者がよく訪ねて来るようになる。
- 不審な電話や、嫌がらせの手紙・メールがくる。友人からの電話で急な外出が増える。
- 自己否定的な言動が見られ、死や非現実的なことに関心を持つ。
- 投げやりで集中力が無くなる。ささいなことでも決断できなくなる。
- テレビゲームやパソコンなどに熱中し、現実から逃避しようとする。
- 急に学習時間が減ったり、宿題や課題をしなくなったりする。
- 急激に成績が下がる。

■いじめ発見のチェックポイント（6月・11月用）

いじめには、上級生による下級生へのいじめなど、弱者に対する攻撃としてのいじめがあるほか、学級集団など限られた人間関係の中だからこそ発生しがちないじめもあります。

昨今発生しているいじめは、この身近な集団内におけるいじめが多くを占めています。この身近な集団内でのいじめは、特に6月と11月頃の二つの時期をピークに発生しています。

6月は、進学・進級で新しい学級になって、集団内の互いの力関係や個性が少しずつ理解できてきた時期にあります。一方、11月は、1学期に一度形成された人間関係が変化する時期で、それまでのリーダーが、いじめのターゲットになったり、仲良しグループ内で、いじめが発生したりする時期となります。

この二つの時期を中心として、学級や子どもの様子を観察することも大変重要です。

時期

学級内の子どもたちの人間関係は、それぞれ独自のものがあります。それぞれの特徴を見極め、理解しておくことが大切です。また、いじめは、何の兆候もなく起きるものではありません。日頃から、子どもや学級集団の小さな変化を見逃さないことも重要です。

6月のポイント

- 学級の生活のルールが守られているか。
- わがままで無責任なタイプの子どもに対して、適切な指導がなされているか。
- おとなしく、活動的でない子どもの様子に目が向けられているか。
- 子どもの活躍、またはトラブルの原因把握を通して、子どもに対する理解が深まっているか。

11月のポイント

- 学級のリーダーが固定していないか。
- リーダーに対して、他の子どもは協力しているか。
- 仲良しグループの構成に変化が見られないか。
- 教師への接し方や表情などに、大きな変化を見せている子どもはいないか。

※ これ以外にも、どんな「いじめのサイン」があるか、校内研修等で機会を捉えて意見交換を行い、職員一人一人が、見えにくいサインに気づく感度を高め、「笑顔の奥に隠された絶望」を見抜く児童生徒理解を進めることが望まれます。

（参考文献）

- ・児童心理編集部「いじめ対応と予防読本」金子書房
- ・「いじめ対策必携」鹿児島県教育委員会